



Simply Better Connections

CLIコマンドガイド

AP206 / AP212 / AP412

DSP搭載パワーアンプ

本書 日本語マニュアルについて

この日本語マニュアルはATEN International Co., Ltdが作成している英語版ユーザーマニュアルを、日本国内のお客様が製品をご使用になる上での便宜を図るため、ATENジャパン株式会社にて機械翻訳ベースで作成したドキュメントです。用語・表現などは公開前に人為的な修正を加えておりますが、若干の表記ゆれなどが残っている可能性がございますので、ご理解願います。また、グローバル共通のマニュアルを翻訳したドキュメントであるため、日本国内でのお取り扱いがない機種が含まれている場合がありますことを、ご了承ください。

製品の取扱説明書としての整合性は英語版ユーザーマニュアルに準じますが、万が一内容に不備・誤りなどがございましたら、誠にお手数ですが、ATENジャパン株式会社までお問い合わせさせていただきますよう、お願い申し上げます。

本ガイドについて

AP206/AP212/AP412は、PCまたはコントロールシステムからRS-232またはTelnet経由で接続し、コマンドで設定・制御が可能です。本書では、本製品への接続方法と、操作・設定に使用するコマンドについて説明します。

本書の構成は、次のとおりです。

第1章 リモートターミナル操作:事前の準備、Telnetセッションの開始方法、RS-232コマンドを送信するためのシリアル通信セッションの確立方法について説明します。

第2章 CLIコマンド:AP206/AP212/AP412のコマンド構文と制御コマンドについて説明します。

注意:

- 本製品や接続機器の損傷を防ぐため、必ず本書の内容に従ってセットアップ・操作を行ってください。
 - 本書の公開後、機能の追加・改良・削除にともない、内容を更新する場合があります。最新のマニュアルは、<http://www.aten.com/global/en/> でご確認ください。
-

目次

本ガイドについて.....	i
目次.....	ii
マニュアル表記について.....	iii
第1章 リモートターミナル操作	1
概要.....	1
セットアップ.....	1
AP206/AP212/AP412への接続 (Telnet経由)	2
AP206/AP212/AP412への接続 (RS-232経由)	4
第2章 CLIコマンド.....	5
概要.....	5
コマンド構文	5
コマンド一覧	6
チャンネル番号.....	6
read.....	7
reboot	8
standbyon.....	9
profile f[n] load.....	10
volume	11
mute.....	13

マニュアル表記について

このマニュアルでは、次の規則を使用します。

[] 押すキーを示します。例えば[Enter]は、Enterキーを押すことを表します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl + Alt]のように表記します。

1. 番号付きのリストは、順番どおりに実行する操作手順を示します。

◆ ◆印の箇条書きは補足情報であり、操作手順ではありません。

> 「>」は、次に選択する項目を示します。例えば「スタート」>「実行」は、「スタート」メニューを開いてから「実行」を選択することを表します。

 重要な情報を示します。

第1章 リモートターミナル操作

概要

AP206/AP212/AP412は、DSP搭載パワーアンプです。PCやコントロールシステムからRS-232またはTelnet経由でリモートログインし、システムを制御できます。

セットアップ

Telnetなどのテキストベースのターミナルアプリケーションから本製品をリモート制御するには、Telnetサーバー機能を有効にする必要があります。本製品のウェブGUIにログインし、「設定」画面 > 「全般」タブ > 「ネットワーク設定」の順に移動して、「Telnetサーバーを有効にする」にチェックを入れてください。

Network Settings

Private Certificate Upload

Enable Telnet Server ☐

Server port ☒ HTTPS only ☐ HTTP/HTTPS

Host validation ☐
Ensures only authorized Host headers are accepted, enhancing security.

IP installer Enable

注意:

上図は参考用です。ウェブGUIの実際の設定画面は若干異なる場合があります。

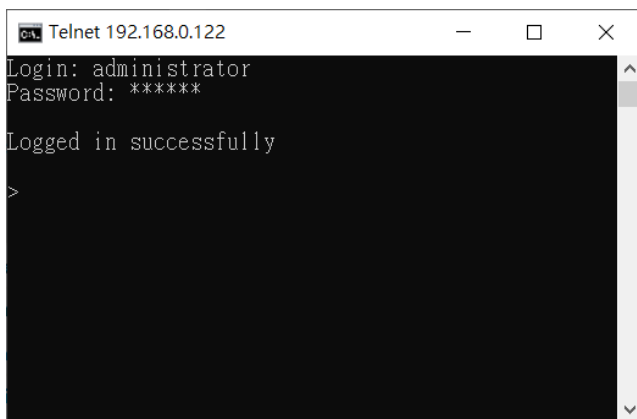
AP206/AP212/AP412への接続(Telnet経由)

AP206/AP212/AP412のTelnetセッションを確立するには、次に従って操作します。

1. PCまたはコントロールシステムを、AP206/AP212/AP412と同じネットワークに接続します。
2. PCのコマンドプロンプトを起動します。
3. コマンドプロンプトで、次のようにコマンド※とAP206/AP212/AP412のIPアドレスを入力します。

```
telnet [IPアドレス]
```

4. [Enter] キーを押して、ログイン画面を表示します。
5. ログイン名を求められたら、ユーザー名とパスワードを入力し、[Enter]キーを押します。ユーザー名とパスワードは、ウェブGUIのログイン情報と共通です(初期設定はadministratorまたはoperator)。



注意:

※ Windows 10以降のPCでは、Telnetクライアントが標準では無効になっています。あらかじめ「Windowsの機能の有効化または無効化」からTelnetクライアントを有効にしてください。

・ユーザー名は、すべて小文字で入力してください。

6. セッションが確立されると、コマンドで本製品を制御・設定できます。コマンドの詳細については、次を参照してください。

- p.5「コマンド構文」
- p.6「コマンド一覧」

注意:

すでにログイン中のユーザー一名で再度ログインすると、新しいセッションだけが有効になり、以前のセッションは切断されます。

AP206/AP212/AP412への接続(RS-232経由)

1. PCまたはコントロールシステムを、本製品リアパネルのRS-232ポート(3極ユーロブロック)に接続します。(3極ユーロブロック)に接続します。
2. PCを使用する場合は、PuTTY や Tera Term など RS-232 シリアル通信に対応したクライアントプログラムをダウンロードしてインストールします。
3. プログラムを実行し、以下の通信設定を行います。
 - ボーレート: **19200**
 - データビット: **8**
 - ストップビット: **1**
 - パリティ: **なし**
 - フロー制御: **なし**
4. 本機との通信が確立されると、コマンドで本製品を操作・設定できます。コマンドの詳細については、次を参照してください。
 - p.5「コマンド構文」
 - p.6「コマンド一覧」

注意:

本製品がスタンバイモード中は、RS-232コマンドを受け付けません。

第2章

CLIコマンド

概要

AP206/AP212/AP412は、PCまたはコントロールシステムなどからRS-232またはTelnetコマンドで操作・設定ができます。この章では、コマンド構文と、操作・設定に使用する各コマンドについて説明します。

コマンド構文

- ・ コマンドの一般的な形式は、次のとおりです。

コマンド パラメーター <引数> [1|2|3]

表記	説明
コマンド	コマンドの名前は太字で表示されます。
パラメーター	パラメーターの名前です。
<引数>	ユーザーが指定する値や情報を示します。山カッコ<>の中の情報だけを入力し、カッコ自体は入力しません。
[]	省略可能な項目を示します。角カッコ[]の中の情報だけを入力し、カッコ自体は入力しません。
{ }	いずれか1つを必ず選択する項目を示します。
	同時には選択できない2つ以上の選択肢の区切りを示します。いずれか1つだけを入力し、記号自体は入力しません。

- ・ パラメーターが2つ以上ある場合、入力する順序が変わっても実行結果は同じです。例えば、次の2つのコマンドは同じ動作をします。

コマンド名 + パラメーター1 + パラメーター2

コマンド名 + パラメーター2 + パラメーター1

コマンド一覧

以下のコマンドを使用すると、TelnetまたはRS-232経由でAP206/AP212/AP412を制御・設定できます。TelnetまたはRS-232の接続方法については、p.2「AP206/AP212/AP412への接続(Telnet経由)」およびp.4「AP206/AP212/AP412への接続(RS-232経由)」を参照してください。

チャンネル番号

各チャンネルに対応する引数の値は、以下の表で確認できます。例えば、スピーカー出力チャンネルAを指定する場合は「o1」、ライン出力チャンネル4(AP412)の場合は「o8」と入力します。

利用可能なチャンネル番号や引数の値は、モデルによって異なります。

チャンネル	チャンネル数	引数の値	対応モデル		
			AP206	AP212	AP412
スピーカー出力					
チャンネルA	出力1	1	✓	✓	✓
チャンネルB	出力2	2	✓	✓	✓
チャンネルC	出力3	3			✓
チャンネルD	出力4	4			✓
ライン出力					
チャンネル1	出力3	3	✓	✓	
チャンネル2	出力4	4	✓	✓	
チャンネル1	出力5	5			✓
チャンネル2	出力6	6			✓
チャンネル3	出力7	7			✓
チャンネル4	出力8	8			✓

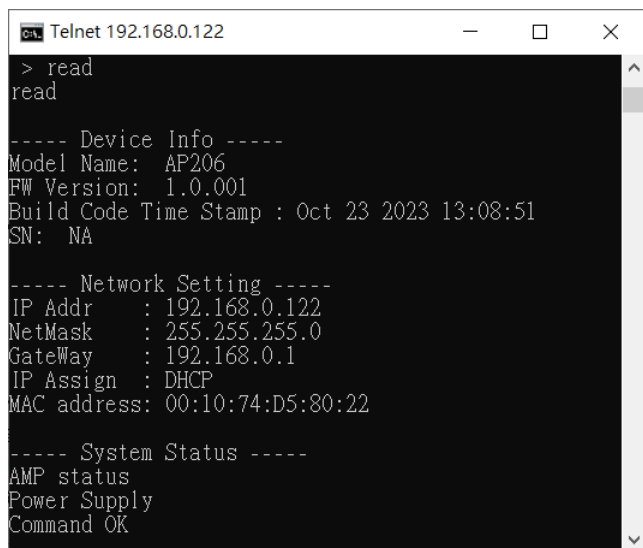
read

- 機能

デバイス情報、ネットワーク設定、およびシステム状態を表示します。

- コマンド入力例

read



```
C:\ Telnet 192.168.0.122
> read
read

----- Device Info -----
Model Name: AP206
FW Version: 1.0.001
Build Code Time Stamp : Oct 23 2023 13:08:51
SN: NA

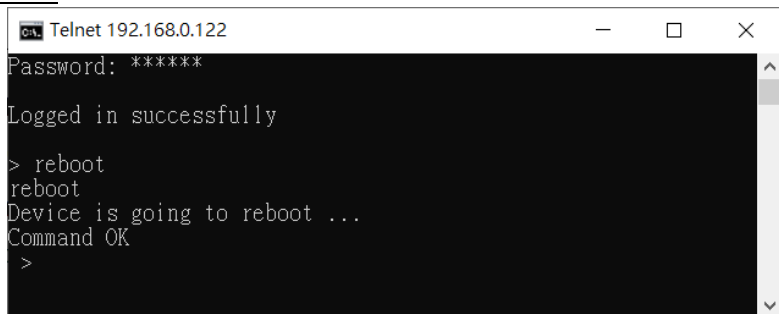
----- Network Setting -----
IP Addr   : 192.168.0.122
NetMask   : 255.255.255.0
GateWay   : 192.168.0.1
IP Assign : DHCP
MAC address: 00:10:74:D5:80:22

----- System Status -----
AMP status
Power Supply
Command OK
```

注意:

上図は参考用です。実際のコマンドの応答は若干異なる場合があります。

reboot

A screenshot of a Telnet window titled "Telnet 192.168.0.122". The window has standard Windows-style window controls (minimize, maximize, close). The background is black with white text. The text in the window shows a login sequence: "Password: *****", "Logged in successfully", followed by a prompt ">". The user enters the command "reboot", which is displayed on the next line. The device responds with "Device is going to reboot ...", "Command OK", and then another prompt ">".

```
Telnet 192.168.0.122
Password: *****
Logged in successfully
> reboot
reboot
Device is going to reboot ...
Command OK
>
```

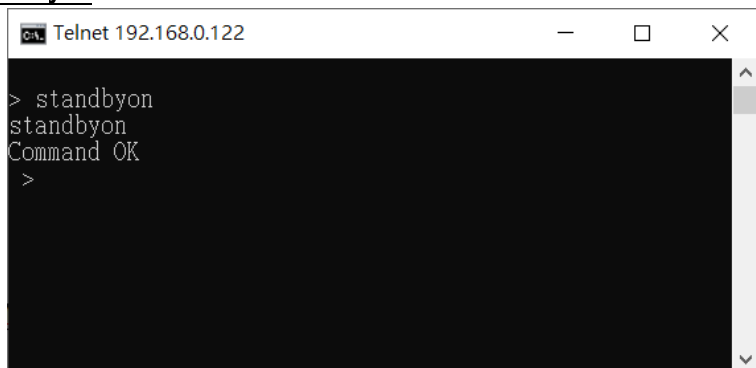
- **機能**

主電源を切らずに、本製品を再起動します。一時的なネットワーク障害で通信できなくなった場合は、再起動による復旧をお試しください。

- **コマンド入力例**

reboot

standbyon



```
Telnet 192.168.0.122
> standbyon
standbyon
Command OK
>
```

- **機能**

本製品を手動でスタンバイモード(低消費電力状態)に切り替えます。-24dBu以上の音声入力を検出するか、ウェブGUIからリモートアクセスすると、スタンバイモードは解除されます。

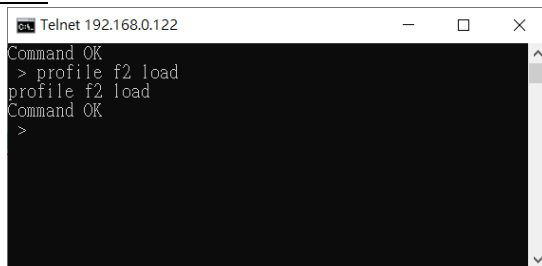
- **コマンド入力例**

standbyon

注意:

本製品がスタンバイモード中は、RS-232コマンドを受け付けません。スタンバイモード中に操作する場合は、Telnet経由でコマンドを送信するか、音声を入力してスタンバイモードを解除してから操作してください。

profile f[n] load

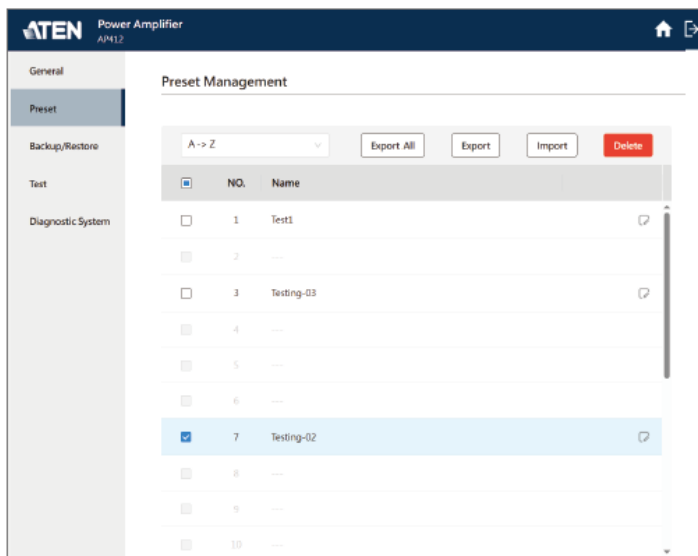


```
Telnet 192.168.0.122
Command OK
> profile f2 load
profile f2 load
Command OK
>
```

- 機能

ウェブGUIであらかじめ登録したプリセットを適用します。

[n]には、ウェブGUIで登録したプリセット番号を指定します。指定できる番号は1～20です。



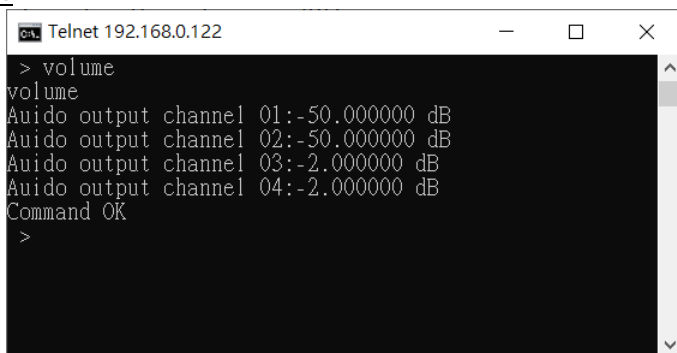
- コマンド構文

profile f[n] load

- コマンド入力例

profile f2 load

volume



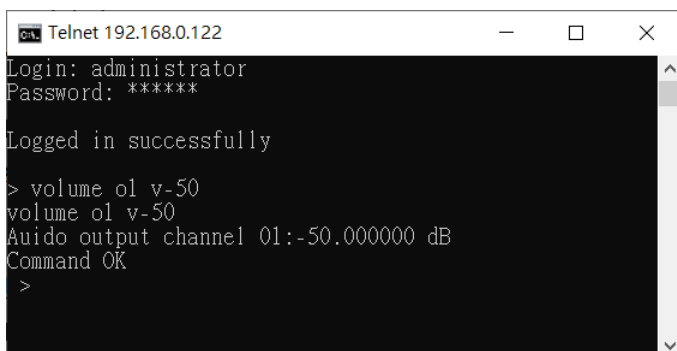
```
Telnet 192.168.0.122
> volume
volume
Audio output channel 01:-50.000000 dB
Audio output channel 02:-50.000000 dB
Audio output channel 03:-2.000000 dB
Audio output channel 04:-2.000000 dB
Command OK
>
```

機能・構文

構文	機能
volume	各チャンネルの現在の出力音量を表示します。
volume o[n] v[x]	指定したチャンネルの出力音量を調節します。
volume o[n] step[s]	指定したチャンネルの出力音量を、0.5dB単位で増減します。

パラメーター

- o[n]:
音量を調整する出力チャンネルを、1桁の数字で指定します。詳細は、p.6「チャンネル番号」を参照してください。
- v[x]:
音量をdBFS単位で指定します。



```
Telnet 192.168.0.122
Login: administrator
Password: *****
Logged in successfully
> volume o1 v-50
volume o1 v-50
Audio output channel 01:-50.000000 dB
Command OK
>
```

注意:

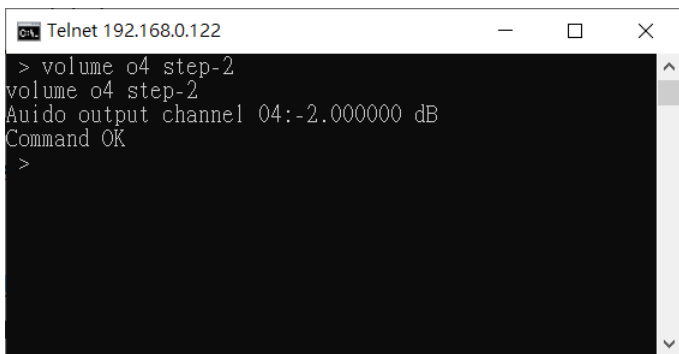
1. スピーカー出力チャンネルで指定できる値は、-50～12dBまたは-90dBです。
 2. ライン出力チャンネルで指定できる値は、-80～6dBまたは-90dBです。
-

- step[s]:
音量を増減するステップ数を、数字で指定します。1ステップは0.5dBです。

- コマンド入力例

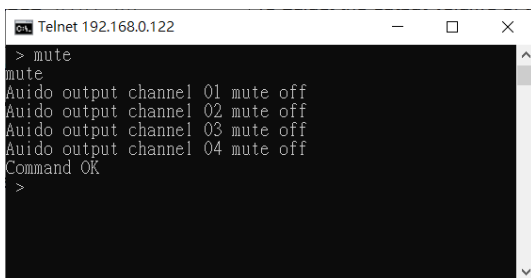
volume o2 v-50 (スピーカー出力チャンネルBの音量を-50dBFSに設定する)

volume o4 step-2 (出力4の音量を2ステップ<1dB>下げる)



```
Telnet 192.168.0.122
> volume o4 step-2
volume o4 step-2
Audio output channel 04:-2.000000 dB
Command OK
>
```

mute



```
Telnet 192.168.0.122
> mute
mute
Audio output channel 01 mute off
Audio output channel 02 mute off
Audio output channel 03 mute off
Audio output channel 04 mute off
Command OK
>
```

• 機能・構文

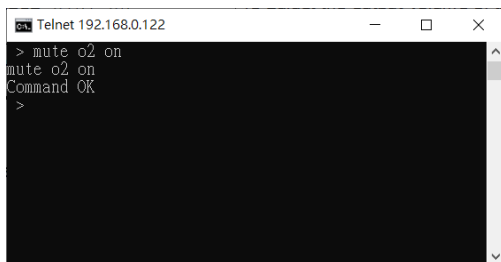
構文	機能
mute	各チャンネルのミュート状態を表示します。
mute o[n] on	指定したチャンネルをミュート(消音)します。
mute o[n] off	指定したチャンネルのミュートを解除します。

• パラメーター

- o[n]:
チャンネルを1桁の数字で指定します。詳細は、p.6「チャンネル番号」を参照してください。
- on: 指定したチャンネルの音声出力を止めます(ミュートします)。
- off: 指定したチャンネルのミュートを解除します。

• 例

mute o2 on (スピーカー出力チャンネルBをミュートする)



```
Telnet 192.168.0.122
> mute o2 on
mute o2 on
Command OK
>
```